



みどりのきずな

令和 7 年 4 月発行 第 42 号

編集: 緑区支え合いのまち推進協議会広報部会 発行: 緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8185 FAX:043(293)8284

緑区共通福祉活動推進をめざして

緑区支え合いのまち推進協議会 委員長 岡本 博幸

令和 6 年度緑区支え合いのまち推進協議会の会議が 2 回終了しました。グループワークを中心として地区活動の推進や課題等について意見交換し合いました。会議は小グループであり全員参加による活動の共通理解ができる良さはありました。しかし緑区全体・各地区の福祉活動の内容について共通理解ができたのかという課題は残ったと思います。

年々少子化は進んでいます。それに対応した福祉活動の推進が求められています。そのため一つ提案をさせていただきます。それは区としての共通テーマを取り上げ特色ある活動を推進することです。例えば次の内容です。

- ・高齢者一人ひとりが生きがいを感じる会の開催。
- ・地域の誰もが参加できる巡回健康体操の会の開催。
- ・ボランティアが意欲を持って参加できる活動の場の設定。
- ・高齢者福祉施設との連携による福祉活動の推進。
- ・福祉教育を推進するために委員が出前福祉講座を実施。
- ・児童生徒による福祉活動の体験の場を設定と参加機会の提供。

等々です。このことは地区の重点活動としていますと言われるかもしれません。そのことは十分承知しています。先進的な活動であることは理解しています。それを区全体の共通重点活動目標に設定し取り組んだらどうでしょうか。という一つの提案です。時代を切り開くために如何でしょうか。

一つのことを全体で考え実践することは福祉活動推進の認識を高めることになります。その成果は必ずや他の活動へ影響を与え福祉活動を強固なものにしていくと確信しているからです。

問い合わせ 緑保健福祉センター高齢障害支援課 TEL043-292-8138 FAX043-292-8276
 社会福祉協議会緑区事務所 Email koreishogai.MID@city.chiba.lg.jp
 TEL043-292-8185 FAX043-293-8284
 Email midori@chiba-shakyo.jp

地域活動紹介

ボランティア研修会の開催(土気地区部会)

令和6年9月11日土気公民館でボランティア研修会が開催されました。普段は、地域のサロン活動、散歩クラブ、子育てサロン等のボランティアとして活動している方が参加しました。災害発生時の非常食の準備については知識として持っている方も多いと思いますが実際にそれを準備し食する体験をしている方は、ボランティアをされていても少数です。そこで今回は実際に調理して食べることを研修の目的として実施しました。まずお米を耐熱のポリ袋で湯煎して炊いてみました。また、実際に千葉市等で保管しているお湯や水を入れて食べる非常食のご飯を準備して食べてみました。初めての体験という方が多く日常の食事とは違う食事になることを確認できました。意外とおいしく食べられた、何とかかなりそうというような感想が聞かれました。研修会では、ボランティア同士の交流も深まりました。研修をもとに、各サロンで広めることも大きな目標でしたがそれぞれのサロンで実際に試食し会員に広めていくことができました。



サロンでの試食の様子

敬老会の開催(平山地区部会)

平山地区部会(平山・辺田・鎌取・南鎌取・市営団地)では、コロナ前まで敬老会が開催されていきました。30年余り続いた敬老会は、75歳以上を対象に民生委員が出欠席の確認をして実行委員会組織で行われていました。平山小学校の体育館を借りて開催していたので、専用バスを用意しました。来賓者には、市議員の方をお招きしたり、現在は千葉県知事である熊谷さんが来て、踊りを披露して盛り上げてくれたこともありました。平山小3年生の合唱と合奏、有吉中の吹奏楽部による演奏、町民のダンスや踊りと大変にぎやかでした。

今考えますと充実した地域行事のひとつだったと思います。

コロナ禍の『お祝いの品とお手紙』のポスティングを経て、今年度とうとう廃止になり各町内会に任せることが役員によって決まりました。話し合いの結果、敬老会の形として開催したのは2か所だけでした。

鎌取町では、令和6年9月15日の敬老の日に食事会を中心に、ゲームをしたり合唱したり40名程の敬老者が約5年ぶりに集まり、和気あいあいとした会が開催できました。

今回のことで、時の流れや役員の高齢化による1つの行事を続けていく難しさを感じました。



ジュニア認知症サポーター養成講座を開始しました(あんしんケアセンター鎌取)

平成 29 年度より緑区では区内の中学 1 年生を対象とし、ジュニア認知症サポーター養成講座を開催しています。

この講座は、高齢障害支援課とあんしんケアセンター職員が講師となり、認知症の原因や症状、対応の基本について学んでいただくもので、紙芝居やクイズを取り入れながら楽しく学べるよう工夫してきました。

コロナ禍で開催できない年もありましたが、受講生は延べ 4 千人を超え、今までに多くのジュニア認知症サポーターが誕生しています。

講座後のアンケートでは「認知症の方がいたら手助けをしてあげたいと思う」「認知症のおばあちゃんに優しく接したいと思う」など様々な感想が聞かれており、これからを担う若い世代の方に認知症について関心を持ってもらう良い機会になっているのではないかと感じております。

今年は団塊の世代の方が全て 75 歳以上となり、今後更に認知症の方が増えると予測されています。

認知症になっても、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる。そんな社会の実現を目指し、来年度も認知症ジュニアサポーター養成講座の継続開催を目指します。



異文化交流と共生社会の実現に向けて(ときわ園)

緑区平川町にある特別養護老人ホームときわ園では、ベトナム、ミャンマー、インド、ネパール、フィリピン出身の職員が働いています。

施設を利用されている方々に楽しいひと時を過ごしていただきたいこと、働く外国人職員にとって国際交流の機会を提供したいと考え、外国人従業員による「母国紹介プログラム」を開催しました。このプログラムは、外国籍の職員が自身の国の魅力を利用者の皆さまに伝えるという取り組みです。今回は、ベトナム出身の 2 名の職員のプログラムをレポートさせていただきます。

まず、大きな文字で見やすくカラフルに仕上げた手作りの母国を紹介する資料を用意し、利用者お一人お一人に配りました。資料に目が行くことで一方通行になってしまわないよう、ベトナム語の挨拶クイズや国旗の色当てゲーム、伝統衣装クイズなども盛り込んで、ご高齢の方々と一緒に考えたり、現地の言葉で話していただいたり。まさに異文化交流の時間を演出することができました。

さらには、パクチーやレモングラスといった香り豊かな食材を用意して、五感を使ってベトナムを感じていただける演出も。さらに、ベトナムの伝統料理やコーヒーの紹介もあり、「写真だけじゃなくて実際に口にしてみたい！」という声上がるほどでした(笑)。

他の日本人職員も外国籍職員をサポートし、全スタッフ一丸となってご利用の皆様に楽しんでいただけたひとときとなりました。

他の多くの産業と同じで、福祉の職場も外国人の労働力が必要な状況です。豊かな緑と、豊かな国際色をこれからも大事にして、共生協働の施設として緑区の福祉を充実できるよう活動していきたいと思ひます。



ふれあい福祉フェスティバルの開催(社会福祉法人くちなし)

令和6年10月19日(土)・20(日)と土気駅前バースモール広場にて開催された『ふれあい福祉フェスティバル』は今年で第30回目を迎えました。元々は(福)あしたば中野学園が行っていたこのフェスティバルは、現在は土気地域にある14の福祉団体・事業所とボランティア有志による実行委員会により運営されています。今回のフェスティバルでは過去30回を振り返るコーナーも展示しました。

寒暖差はあったものの2日間とも晴天に恵まれて延べ約1000人の市民が会場に集い、各福祉事業所が製作した作品・食品の販売、団体の活動内容の展示、eスポーツ体験等を通じて実際に活動している支援者や障害を持った人達とふれあう機会となったり、ステージでは10の出演団体が、和太鼓・ギター・吹奏楽・バンドなどの楽器演奏、合唱や手話ダンス、剣道演武などでフェスティバルを盛り上げてくれました。



開催テーマにもある通り、土気・あすみが丘地区における、地域住民と福祉団体・障害を持った人が共に楽しみ、共に福祉について考える時間を共有できたことは、とても有意義だったと思います。

委員からの一言(千葉市身体障害者連合会 廣田 健次)

先日「こちらは電話リレーサービスです。耳の聞こえないかたなどからのお電話を通訳しております。双方のお話を全て通訳いたします。」という電話を受けました。

以前から付き合いのある、難聴の友人からでした。

補聴器を使って、何とか自分で電話をしていたのですが、会話の大変さを感じ始めたため、令和3年から公共インフラとして開始されたこのサービスを利用しているとのことでした。

通訳オペレータを介した会話は、思ったよりスムーズで、「当事者には便利なサービスだな」と感じました。

このサービス、世の中にはまだほとんど認知されておらず、電話を掛けた相手が戸惑ったり、怪しまれて途中で切られてしまったりなど、トラブルも多いそうなので、これを読んだ皆様にも知っていただきたく、ここで取り上げてみました。



この広報紙が緑区住民のきずなを深め広めるために、少しでもお役に立てればいいな！と思います。(M・S)